

令和7年度

決算の公表

市ホームページ
はこちら



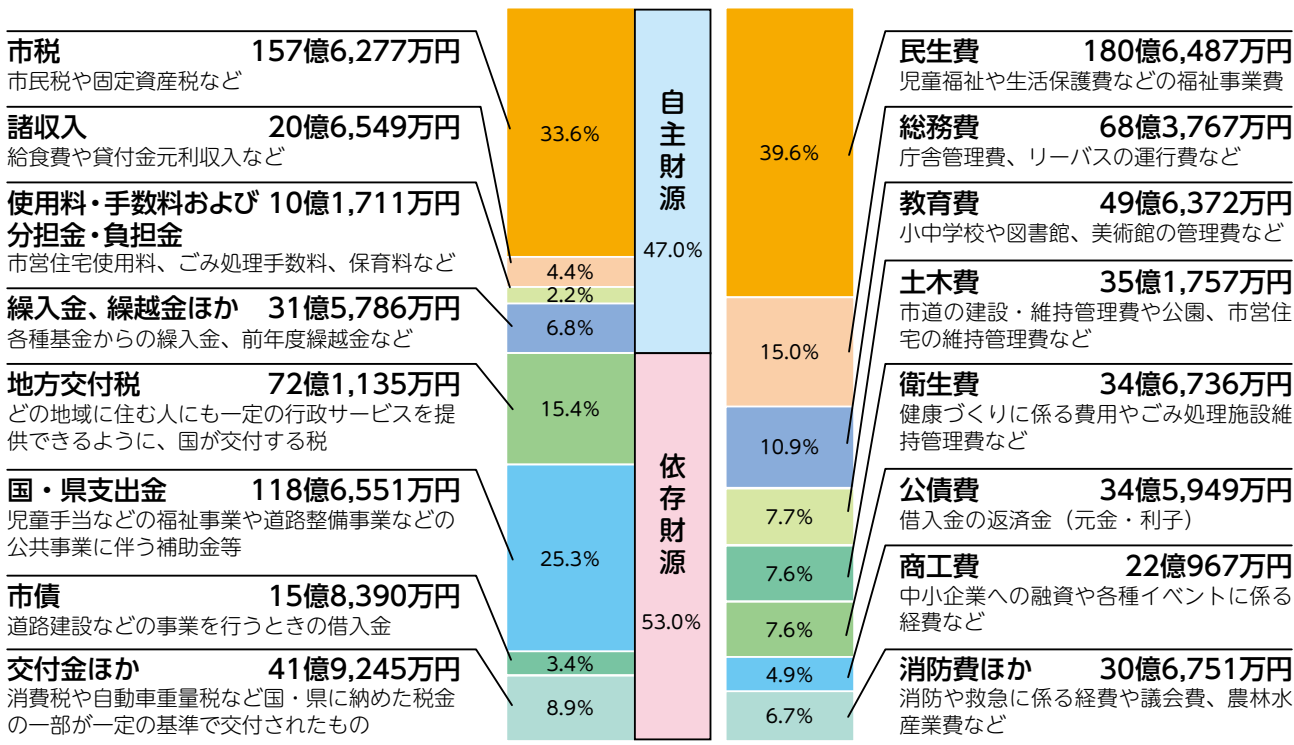
財政課財政係 ☎(63)2151

令和7年度の市の決算を公表します。毎年、市では市民の皆さんが納めた大切な税金や、国・県からの補助金などが、いくら入ってきたのか、またどのように使われているのかをお知らせしています。

令和7年度 一般会計の決算

歳入 合計468億5,644万円

歳出 合計455億8,786万円



市民1人当たりが負担した市税
170,539円

市民1人当たりに使われたお金
493,220円

歳入決算の特徴

個人所得の伸びや前年度税収減の要因であった定額減税の影響が減少したことにより、市税収入は前年比6.2%増となりました。

また、児童手当の支給対象者拡大等により国庫支出金が増となりました。歳入総額は前年度と比較すると約3.4%の増となりました。

○一般会計の財政状況

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{(市の歳入)} \\ \hline 468\text{億}5,644\text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{(市の歳出)} \\ \hline 455\text{億}8,786\text{万円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{歳入歳出差引額(形式収支)} \\ \hline 12\text{億}6,858\text{万円} \\ \hline \end{array}$$

○令和7年度本来の収入状況は？

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{歳入歳出差引額(形式収支)} \\ \hline 12\text{億}6,858\text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{翌年度への繰越財源} \\ \hline 2\text{億}215\text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{前年度実質収支} \\ \hline 10\text{億}228\text{万円} \\ \hline \end{array}$$

$$+ \begin{array}{|c|} \hline \text{基金積立} \\ \hline 3\text{億}1,461\text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{基金取崩し} \\ \hline 4\text{億}2,000\text{万円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{実質単年度収支} \\ \hline \text{▲}4,124\text{万円} \\ \hline \end{array}$$

※基金は財政調整基金のことです。

(令和7年度本来の収支状況)

歳出決算の特徴

一般廃棄物最終処分場整備の完了に伴い、衛生費は減となりましたが、学校屋内運動場空調設置などの整備事業の実施や児童手当の支給対象者拡大の影響等により、民生費の割合が増加し、引き続き高い水準となりました。

歳出総額は前年度と比較すると約3.3%の増となりました。

形式収支には前年度繰越金や基金（預貯金）の取崩しなどが含まれているため、形式収支だけで財政状況を判断することはできません。

1年間の収支では支出が収入を上回っています。基金を活用することで、将来に向けた投資や市民サービスの充実を図りました。

特別会計の決算

特定の歳入をもって、特定の事業を行うなど、一般会計から切り離し、特別の会計を設けて経理を行っています。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	94億9,048万円	92億3,010万円
公設地方卸売市場事業費	1,177万円	1,098万円
介護保険	86億4,185万円	85億5,037万円
後期高齢者医療	15億6,054万円	15億4,279万円
粕尾財産区管理会	21万円	12万円
清洲財産区管理会	105万円	27万円
合計	197億590万円 (前年比 ▲2.98%)	193億3,463万円 (前年比 ▲1.79%)

上下水道事業会計の決算

地方公営企業法の適用を受け、民間企業と同様の会計方式をとっています。

【水道事業会計】

給水人口	84,226人
収益的収支 (維持管理費)	収入 16億3,384万円 支出 14億6,624万円
資本的収支 (設備投資費)	収入 7億1,102万円 支出 15億5,217万円

【下水道事業会計】

接続人口	61,860人
収益的収支 (維持管理費)	収入 24億193万円 支出 23億2,874万円
資本的収支 (設備投資費)	収入 5億8,134万円 支出 14億1,273万円

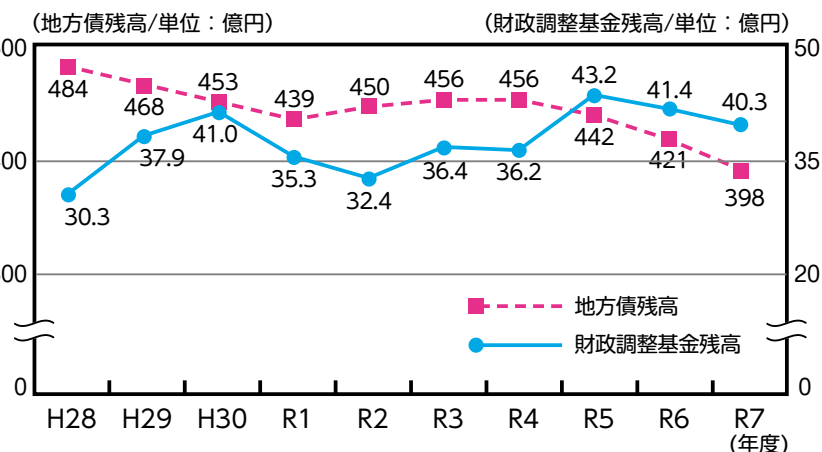
市の借金と預貯金の残高の推移

右のグラフは、市の過去10年間の地方債(一般会計・公営企業会計を含めた借金)と財政調整基金(預貯金)の残高の推移です。

安定した市民サービスを行うため、市民負担の平準化を図りながら、市の借金を減らすよう努め、計画的に基金への積み立てを行っています。

地方債残高の減は国の制度変更により臨時財政対策債の発行が無くなったことが大きな要因です。

※財政調整基金は、財源に不足が生じた場合に取崩すものです。主に教育・福祉・災害復旧事業等に充当しています。



健全化判断比率・資金不足比率

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』に基づく、令和7年度決算における本市の健全化判断比率・資金不足比率については次のとおりです。前年度と比較すると実質公債費比率が増加しました。

	鹿沼市の比率	早期健全化基準(注2) (⑤は経営健全化基準)
①実質赤字比率 市の一般会計における1年間の赤字の程度を判定するものです。	黒字のため、該当しません。(－)	12.11 (12.15)
②連結実質赤字比率 市の全ての会計における1年間の赤字の程度を判定するものです。		17.11 (17.15)
③実質公債費比率 借入金の1年間に返済する額が、収入に対して占める割合を判定するものです。	3.3 (3.0)	25.0 (25.0)
④将来負担比率 借入金の返済見込額など将来負担すべき実質的な負債がどの程度になるかを判定するものです。	実質的な負債がないため、該当しません。(－)	350.0 (350.0)
⑤資金不足比率 公営企業(注1)ごとの資金の不足額が、事業規模に対してどの程度あるかを判定するものです。	黒字のため、該当しません。(－)	20.0 (20.0)

※()は令和6年度決算における数値

(注1) 公営企業とは、本市の場合、水道事業、下水道事業、公設地方卸売市場事業です。

(注2) 各比率が早期健全化基準・経営健全化基準を上回ると、イエローカードと判定され、財政健全化計画を定め、早期健全化に向けた自主的な改善努力が必要となります。

主なお金の使いみち



●学校給食事業費
9億9,131万円



●校舎等施設整備事業費
9億5,810万円



●道路整備事業費
7億815万円